

今後の本県の観光振興について

資料3

現行の観光振興計画（計画期間：平成25～27年度）

「観光立県かながわ」の実現をめざし、3つの将来像を掲げ、重点プロジェクトを推進
神奈川の観光の将来像 重点プロジェクト 主な目標数値

何度も訪れたいくなる神奈川

豊かな自然、歴史・文化、優れた都市景観、個性あふれる街並みなど、多彩な観光魅力を最大限に生かし、魅力の創出とホスピタリティがあふれる、何度も訪れたいくなる神奈川を実現します。

新たな観光の核づくり（城ヶ島・三崎、大山、大磯）
地域活性化に向けた拠点づくり（湘南江の島、大涌谷）
地域の観光魅力の向上や情報発信
「水のさとかながわ」づくり - 水の観光の促進
「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の推進と魅力発信
文化芸術によるにぎわいの創出 - 「マグカル」の展開
医食農同源の取組みなど新しい分野と連携した観光の推進

入込観光客数

【2010年】
1億7,400万人
〔2013年実績〕
1億8,459万人
【2015年】
1億7,800万人

神奈川県「入込観光客調査」結果に基づき設定

外国人を引きつける魅力あふれる神奈川

外国人観光客を引きつける神奈川ならではの魅力づくりと観光プロモーションを展開し、快適に旅行を楽しめる神奈川を実現します。

外国人観光客の誘客促進

新たな観光の核づくり(再掲)

「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の推進と魅力発信(再掲)

外国人旅行者の訪問者数

【2012年】
106万人
〔2013年実績〕
116万人
【2015年】
136万人

観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び日本政府観光局(JNTO)調査による推計に基づき設定

観光で元気になる神奈川

多くの観光客が神奈川を訪れることや、地域が主体となったまちづくりが進むことで、元気ある神奈川を実現します。

観光まちづくり人材の育成や観光関連産業の活性化

商店街を核とした地域の魅力づくり
- 商店街観光ツアーの推進

観光消費額総額

【2010年度】
6,600億円
〔2013年度実績〕
6,647億円
【2015年度】
7,000億円

神奈川県「観光客消費動向調査」結果に基づき設定

観光立県かながわの実現

本県の観光の現状と観光を取り巻く状況の変化

本県の観光の現状

入込観光客数(延べ観光客数)(暦年)

	2010年	2011年	2012年	2013年
実績	1億7,419万人	1億5,197万人	1億7,348万人	1億8,459万人
観光振興計画の目標値	1億7,200万人	1億7,300万人	1億7,400万人	1億7,500万人

神奈川県「入込観光客調査」

外国人旅行者の訪問者数(暦年)

	2012年	2013年	2014年(1~9月)
実績	106万人	116万人	122万人
観光振興計画の目標値	-	116万人	126万人

観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び日本政府観光局(JNTO)調査に基づく推計

観光消費額(全県総額)(年度)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
実績	6,648億円	6,740億円	6,218億円	6,647億円
観光振興計画の目標値	6,400億円	6,500億円	6,600億円	6,700億円

神奈川県「観光客消費動向等調査」

入込観光客数(延べ観光客数)について

2011年の東日本大震災の影響で一旦落ち込んだが、その翌年から順調に回復し、東急東横線・横浜高速鉄道みなとみらい線と東京メトロ副都心線の相互直通運転が開始し、圏央道の海老名IC～相模原愛川ICが開通した2013年は過去最高を記録した。しかし、地域別に見ると、他の地域は増えている中、三浦半島地域では減少した。

外国人旅行者の訪問者数について

円安進行による訪日旅行の割安感浸透や、査証緩和措置、消費税免税制度の拡充などの要因により、2013年は史上初めて1,000万人を超え、1,036万人を達成。2014年は前年をさらに上回り、1,341万人(暫定値)を記録した。

こうした中、本県を訪れる外国人旅行者も増加傾向にある。

<参考>・訪問者数の多い国・地域(2013年実績)

中国、台湾、韓国

・訪問者数の伸びている国・地域(2013年実績(前年比))

台湾、フランス、マレーシア

観光消費額(全県総額)について

観光消費額は目標値に対して伸び悩んでいる状況にあるが、入込観光客数が伸びている現状から、今後も漸増傾向が続く見込みである。

本県の観光
を取り巻く
状況の変化

<現行の神奈川県観光振興計画策定(2013年4月)以降の主な事項>

富士山の世界遺産登録(2013年6月)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定(2013年9月)

さがみ縦貫道路の全面開通(2015年3月)

課題

入込観光客数全体は伸びているが、横浜・鎌倉・箱根等の有名観光地に集中しており、県全域に観光客を呼び込む必要がある。

訪日外国人旅行者の増加により、本県への外国人旅行者の訪問者数は伸びているが、地域間競争の激化により、本県への訪問率は低下しているため、神奈川が選ばれるための魅力づくりやPR、受入体制整備が必要である。圏央道の開通などの交通アクセス向上は、本県と同様、他都県にとっても好機である中、神奈川により多くの観光客を呼び込む工夫が必要である。